

農福連携講演会 開催



農業
振興部

12月2日、生産者のもとで障がい者が施設外就労を行う「農福連携」について理解を深めるための講演会が営農センターで開催され、生産者及び就労支援事業所職員など20名が参加した。「農福連携」は、当JA管内で今年度より本格的に開始し、音江地区と一已地区の生産者5戸が近郊の就労支援事業所から障がい者を受け入れている。



今回の講演会では、「(同) 竹内農園 (北広島市)」代表社員の竹内巧氏を講師に招き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためウェブ会議ツール「Zoom」を使ったりリモート講演会として開催した。

竹内氏は平成26年に新規就農として農園を開業し、開園当初から農業と福祉の連携を目的に福祉事業所の障がい者などの就労を受け入れている。そのため、障がい者が作業しやすいよう工程を細分化し、また収穫しやすい作物を栽培するなど障がい者ファーストで「農福連携」に取り組んでいる。竹内氏は、「当農園では15品目の野菜を栽培しているが、汎用性のある機械を使用するため、固定費を抑えながら農業ができる」などと話し、新規就農者が農業にチャレンジする方法としての可能性についてもアドバイスした。また参加者からの工賃の決め方や障がい者とのコミュニケーションの取り方などの質問に対しては、「工賃は施設と相談し、障がい者の能力に合わせて決めている。コミュニケーションは障がい者の興味があることなど休憩の話題で出すようにしている」と回答した。

講演会終了後は、今年度農福連携に取り組んだ生産者や就労支援事業所、深川市役所職員による懇談会を行い、作業を終えての感想や反省、次年度へ向けた作業開始日程の確認などを行った。

【営農企画課 墓田】

JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」 第5講を開催



農業
振興部

12月8日、JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」第5講が開催され、受講生22名が参加した。第5講は、「人生100歳時代。私たちに必要なモノとは？」と題し、生活していくために必要な財産と環境を守るための取り組みについて「年金・相続について」、「SDGsと協同組合」の二部構成で学んだ。

「年金・相続について」をテーマにした講義では、金融共済部の井上正恵部長と同部渉外課の飯沼美智子主査を講師に迎え、日本の健康寿命が世界一の長寿社会を迎えることが海外の研究で推測され、また老後生活では公的年金のほかに老後資金が2,000万円は必要とされているという観点から、井上部長より残された家族のために出来る相続、遺産分割対策や相続税対策について、飯沼主査より低金利時代の中で自分の老後のために蓄える年金共済のメリットなどについてそれぞれ説明を受けた。



「SDGsと協同組合」をテーマにした講義では、農業振興部の佐藤一久部長を講師に迎え、(一社)家の光協会がSDGsについて解説したYouTube動画を視聴した後、佐藤部長よりSDGsとは持続可能な開発目標で子や孫にはその先の世代までずっと豊かに暮らしていけるように私たちがすべき事があげられている点や、私たち人類が生きていく上で必要なお金の管理と生活環境をより良いものにしていく取り組みなどについて説明を受けた。最後に、SDGsの取り組みの一環である「子ども食堂」の話を聞いた受講生からは、「興味がある」「やってみたい」などの声がかかるなど、有意義な講義となった。

【営農企画課 佐藤】

